

「ケーブル技術ショー2017」 直前大特集

「ケーブルコンベンション2017」の関連イベント「ケーブル技術ショー2017」が7月20日(木)・7月21日(金)に東京国際フォーラムで開催される。今回は10GのFTTH、4K・8K、無線、2018年12月に開始される高度BS放送に対応した新システムなどの展示で、ベンダー各社が競い合う。本特集では、ケーブルテレビ業界「近年最大の商機」である高度BSに対応する業界動向をレポート、解説記事「『ケーブル技術ショー2017』必見ブースの見どころ」では、主要な出展企業の展示ブースの注目点を詳しく紹介する。(渡辺 元・本誌編集部)

ケーブル技術ショー2017の概要

会 期：7月20日(木) 9:30~18:00

7月21日(金) 9:30~17:00

会 場：東京国際フォーラム
(東京都千代田区丸の内3-5-1)

・技術展示会 ホールE

・技術セミナー ホールE隣接 セミナー室 1、2

入場料：無料(入場登録制)

主 催：(一社)日本CATV技術協会、

(一社)日本ケーブルテレビ連盟、

(一社)衛星放送協会

2018年12月開始「高度BS本放送」は ケーブルテレビ業界「近年最大の商機」

高度BS・110度CSの本放送(4K・8K実用放送。以下、高度BS)が2018年12月に開始される。ケーブルテレビ事業者にとっては加入者を拡大する絶好の機会だ。久々に到来する「大型商機」として、業界の期待は大きく膨らんでいる。加入者拡大の見通し、各ケーブルテレビ事業者のサービス構想、高度BS対応のためのFTTH化やSTB調達、宅内改修の取り組み、そして注意しなければならない課題などについて、関係者を取材した。この商機を味方にする事ができるかどうかは、今年から来年にかけての各ケーブルテレビ事業者の取り組みにかかっている。

(取材・文：渡辺 元・本誌編集部)

■未対応4Kテレビの台数は？

来年末に約700万台の予想

現在市販されている4Kテレビは高度BS・110度CSのチューナーを搭載していないため、そのままでは視聴できない、高度BSに未対応の4Kテレビだ。果たして高度BS開始時に高度BS未対応の4Kテレビは何台くらい普及しているのか。放送サービス高度化推進協会(A-PAB)技術部長 宇佐美雄司氏は、次のように見通しを述べる。「JEITAの『AV&IT機器世界需要動向～2021年までの展望～』によると、日本では2018年12月末に普及している4Kテレビを累計685万3,000台と推定している。単年では2018年に

279万台。高度BS対応チューナーを内蔵した4Kテレビが発売されるのは2018年12月末の少し前になると予想されるため、この数値の大半は高度BS・110度CS未対応4Kテレビになるだろう」。

視聴者宅に必要な高度BSの受信システムは、放送の種類と受信方法によって異なる。直接受信をする場合、パラボラアンテナについてはBS右旋はこれまでの右旋用アンテナで受信できるが、BS左旋と110度CS左旋は右左旋共用アンテナに交換する必要がある。またブースターや分配器などの伝送機器は、BS右旋の4K放送では、従来のものをそのまま使えるが、BS左旋と110度CS左旋の受信には交換が必要になる。さらに受信機は、BS右旋・BS左旋・110度CS左旋のいずれも高度BS・

110度CSの4K・8Kチューナーを内蔵したテレビ、もしくは4K・8K受信チューナーを介して現在市販されている未対応の4Kテレビで視聴することになる。

一方、ケーブルテレビの高度BS再放送なら、高度BS未対応4Kテレビに高度BS対応STBをつなげば視聴できる。総務省 情報流通行政局 放送技術課長 久恒達宏氏は、「高度BS対応において、ケーブルテレビは直接受信より利便性が高い。直接受信の高度BS対応では、アンテナやブースターなどの交換に費用がかかるし、特にアンテナ周りの交換には手間がかかる。視聴者にとってはケーブルテレビに加入するのが手軽だ。ケーブルテレビ事業者が高度BSに対応すれば、間違いなく加入者が増えるだろう」とその優位性に期待する。